

ICA2008年クアラルンプール大会

参加報告：クアラルンプール大会の概要

神戸大学 佐々木和子

1. ICAとSPA

ICA（国際文書館評議会）は、世界190カ国の文書資料保存機関や専門家団体等が加盟する国際NGOであり、ユネスコの諮問機関の資格をもっている。本部はユネスコ本部と同じくパリにある。4年に1度オリンピックの年には世界の文書資料保存関係者が一堂に会する大規模な大会を開き、最高議決機関である総会が同時におこなわれる。それ以外の年には毎年、加盟各国の国立公文書館長や専門家団体の代表者による国際文書館評議会円卓会議(CITRA)が各国持ち回りで開催され、専門的な討論と共に、実質的な年次運営会合をおこなっている。

ICAの会員は、A：国を代表する文書館、B：全国的な文書館専門家団体、C：文書館及文書館関係機関、D：個人、E：名誉会員（個人）から構成されている。総会の議決権は、A会員とB会員が1票ずつ持ち、全史料協はB会員として総会に参加した。

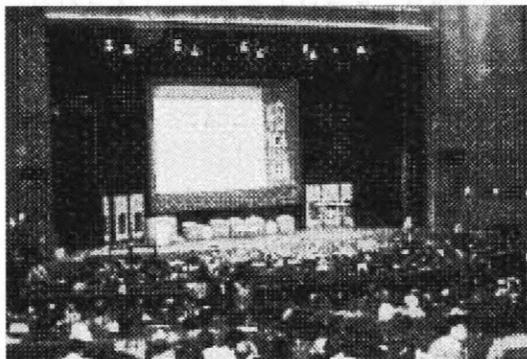
SPA（専門家団体部門 SECTION FOR PROFESSIONAL ASSOCIATIONS）は会員の関心、要請に応じて設けられた専門部門の一つである。この他SAE（専門家研修養成部門）、SMA（自治体文書館部門）、LBA（労働・企業文書館部門）などがあり、日本アーカイブズ学会がSAEのメンバーである。

全史料協は1985年にICAに加盟し、1988年パリで開催された第11回ICA大会以来毎回大会には代表団を送ってきた。また円卓会議には1993年以来日本の専門家団体として参加している。2000年からは、ICAの専門家団体部会運営委員会委員（SPA/SC）として、小川千代子（全史料協副会長）氏がSPAの運営に携わってきた。

SPA/SCの任期は4年、2期8年の再任が可能である。委員の交代は、ICA総会と同じ時期に開かれるSPA総会でおこなわれる。

今回マレーシアのクアラルンプールで開催された第16回ICA大会で、SPA/SCの交代がおこなわれるので、全史料協から代表2名（小川千代子・佐々木和子）がこれに参加した。以下はその報告である。

2. 大会概要



- ・大会テーマ：
Archives, Governance and Development: Mapping Future Society（アーカイブ・管理・発展：未来社会を描くために）
- ・日程：2008年7月21日～28日
- ・場所：クアラルンプールコンベンションセンター、クアラルンプール（マレーシア国）
- ・参加：約140カ国、約1,200人（日本国立公文書館HP記載による）
- ・日本からの参加者

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会からは代表2名とともに大西愛、秋田通子両氏が参加（4名）。この他国立公文書館関係、日本アーカイブズ学会（JSAS）関係、企業出展関係等合計約30名以上になったようだが、参加

者名簿の配布がなかったため、詳細は不明。24日夜開催された国立公文書館主催日本人夕食会参加者は約40名であった。

<日程>

月 日	午前	午後	夜
7月20日	日本出発		現地到着
7月21日	SPA運営委員会	SPA総会	SPA運営委員会夕食会
7月22日	開会式		歓迎夕食会
7月23日	研究発表・報告等		研究発表・報告等
7月24日	研究発表・報告等	研究発表・報告等	研究発表・報告等(日本人参加者夕食会)
7月25日	研究発表・報告等	ICA総会	フリー(文化相夫人主催、女性参加者のダンスパーティー)
7月26日	ICA総会	ICA総会・開会式	フリー
7月27日	解散	帰国準備	現地出発(機内泊)
7月28日		日本帰着	

・発表、報告等

7月22日から25日まで、約220本の発表・報告がおこなわれた。全史料協関係者では、小川千代子氏(副会長)、古賀崇氏(個人会員)が「国際機関におけるアーカイブとレコードマネージメントの考え方」を発表した。日本関係では、国立公文書館企画で3セッションと1ワークショップがおこなわれた。

3. SPA (国際文書館評議会専門家団体部会)

・運営委員会と総会が開催され、2008-2012年運営委員が選出された。

クリスティーヌ・マルティネツ(委員長、フランス)、フレッド・ファン・カーン(副委員長、オランダ)、ジョアン・ボアダス・イ・ラセット(スペイン)、ベルント・フレデリクソン(スウェーデン)、トルディ・ハスカンプ・ピーターソン(アメリカ)、コリン・マキーン(オーストラリア)、ロバート・ナウエ(カナダ)、ワルデマール・ショラシェビスキー(ポーランド)、以上は留任。アンドリュウ・ニコルス(事務局、イギリス)、イザベラ・オルフィーチェ(イタリア)、ミカエル・ディフェンバッハー(ドイツ)、佐々木和子(日本)、以上は新任。

・ICAの会費改定について、団体会員の部分についてSPAとしての意見交換をおこなった。資料は25日、26日のICA総会に提出された。

・2004-2008年事業として、小川千代子委員が、日本から持参した『世界のアーキビスト』(全史料協総務委員会編、2008年)を配布し、世界のアーキビスト団体調査の説明をおこなった。



4. 感想

今回のICA大会では、参加を予定していたイスラエルのアーキビスト(SPAメンバー)のビザが発給されず、参加できなかった。

ICAは国際NGO組織である。これは、政治の介入を避け、専門的立場での国際交流をおこなうためと言われている。しかし、実際には国家の意思に大きく左右される現実がある。

一方、会場となったコンベンションセンターのレセプションルームには、マレーシア独立パレードで使われた車の複製が展示されていた。資料などをもとに、アメリカ中から同型の車を捜しだし、改造したものである。その作業はマレーシア国立公文書館長が中心となっておこなわれた。国家独立の象徴の資料が保存されたのである。

両方の出来事に遭遇し、SPAの役割を再認識した。記録を未来につなぐ。そのことだけに焦点をおき、アーキビスト達が集い会う場がSPAなのである。全史料協は、そのSPAに代表を送っているのだと、改めて胸に刻みこまれた大会であった。